

■松平定信(白河案翁) 老中，白河藩主。田村意次を失脚させて老中首座となり，〈寛政の改革〉断行，隠居後は悠々自適。

まつだいらさだのぶ
宝暦事件・・・1758＝ 生。_8代将軍徳川吉宗の孫，父は三卿の田安宗武。

大岡忠光没・1760＝ 2歳：

儒者大塚孝緯に師事して，_幼時より学問に励み，

明和事件・・・1767＝ 9歳：

・・・・・・・1769＝11歳：_「自教鑑」という修身書を著すなど，俊才の誉れが高かった。

田沼意次老中1772＝14歳：

解体新書・・・1774＝16歳：_奥州白河藩主松平定邦の養子となる。

雨月物語刊・1776＝18歳：

蘭学階梯・・・1783＝25歳：_家督を継いで従四位下，越中守に叙任，白河11万石の藩主となった。
_おりしも天明の大飢饉に際会し，白河藩でも士民の困窮はその極に達していたため，上方より食糧を緊急輸送して領内の窮民を救済するとともに，藩の財政支出を抑えるため，あるいは風俗を匡正するために，徹底した倭約令を発した。さらに家臣には武芸と学問を奨励し，農民には間引きを禁止するなど農村人口の増加策や，植林などの殖産政策を推進し，白河藩政の建直しに努めた。

蝦夷初調査・1785＝27歳：「関の秋風」成る。

田沼意次失脚1786＝28歳：

寛政改革始・1787＝29歳：*藩政の実績や清潔な人柄を評価した三家と将軍家斉の実父一橋治済の推挙により，老中首座となり，
・・・・・・・1788＝30歳：*将軍補佐役となって，権力を掌握。以後，いわゆる寛政改革を主導した。前代の賄賂政治を厳しく批判し，財政の緊縮整理，綱紀の肅正，出版・思想の統制，さらに荒廃農村の再建と都市秩序の維持のために，次々と改革政策を断行した。

松平定信引退1793＝35歳：*老中および将軍補佐役を免じられ，再び白河藩政に専念することになった。誕生から老中辞職までの自叙伝「宇下人言」成る。

オランダ 正月・ 1794＝36歳：

_とくに文武を熱心に奨励し，白河城下に設立した藩校の立教館をいっそう充実したり，庶民のための学校敷教舎を建てするなどした。

伊能測量始・1800＝42歳：古書画，古器物を摸写編集した「集古十種」，「退閑雑記」成る。

アメリカ船来航始1803＝45歳：_流麗な雅文随筆「花月草紙」成る。

バネ来航・ 1804＝46歳：「輿車図考」成る。

高田屋拿捕・1812＝54歳：*家督を子の定永に譲り，隠居後は，花鳥風月の自然に親しむ悠々自適の生活を送る。「花月日記」起筆。

水野忠成老中1818＝60歳：

伊能図完成・1821＝63歳：

・・・・・・・1826＝68歳：「独看和歌集」刊。

日本外史・・・1827＝69歳：自選和歌集の「三草集」刊。

上記の他，_著作は政治の基本を説いた「国本論」を含めて百数十部にも及ぶ。

シボム追放・1829＝71歳：辞世の歌“今更に何かうらみむうきことも楽しきことも見はてつる身は”をのこして_病没した。